

平成 27 年（2015 年）6 月 15 日

## 日本語ボイスバンクプロジェクトに FC 岐阜が連携 ホームゲームでプロジェクト紹介、ボランティア参加も呼びかけ

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（以下 NII、所長：喜連川 優、東京都千代田区）が病気のために声を失った患者の生活の質の向上のために取り組んでいる学術研究プロジェクト「日本語ボイスバンクプロジェクト」に日本プロサッカーリーグ ディビジョン 2（以下 J2）の FC 岐阜が連携し、7 月 12 日（日）の FC 岐阜のホームゲームで本プロジェクトが紹介されるほか、FC 岐阜によるボランティア募集の呼びかけも行われることになりました。

FC 岐阜は 7 月 12 日の明治安田生命 J2 リーグ第 23 節 横浜 FC 戦（午後 6 時キックオフ、岐阜メモリアルセンター長良川競技場）を、聴覚障害者がヒロインの漫画『聲の形』（週刊少年マガジン）とのコラボマッチとして開催します。このイベントの中で本プロジェクトをご紹介いただく予定です。また、コラボマッチの機会や FC 岐阜の公式サイトなどを通じて、クラブのサポーターに本プロジェクトの音声データ収集にご協力いただく「声のボランティア」の募集も呼びかけていただいています。

FC 岐阜の代表取締役、恩田 聖敬（おんだ・さとし）氏は、自身が全身の筋肉が萎縮する難病の「筋萎縮性側索硬化症（ALS）」に罹患していることを今年 1 月に発表されています（<http://www.fc-gifu.com/information/6965>）。日本語ボイスバンクプロジェクトは ALS などでも声を失った患者を対象としており、FC 岐阜との今回の連携は、ALS という病気についての啓発と日本語ボイスバンクプロジェクトの普及・事業推進の双方を目的としています。

「聲の形コラボマッチ」では、岐阜県大垣市出身の作者、大今良時氏のサイン会や聴覚障害者によるデフフットサルの日本女子代表を激励するイベントなども予定されています。

日本語ボイスバンクプロジェクトは、ALS などでも声を失った患者が利用する会話補助器のため、患者自身の声つきで、かつ、品質の高い音声を合成できるシステムを開発するプロジェクトです。このシス

テムでは、患者の属性（例：東海地方の方言を話す三十代男性）と同一の音声データを収集し、「平均声」と呼ぶ声のテンプレートを作成します。この「平均声」に患者の声の特徴を組み合わせることで、患者の声質や声色を再現します。この方法では患者の声の要素すべてを収集する必要がないので、患者の声を録音する際の時間的負担を軽減でき、本人の声による音声合成システムを容易に、素早く構築できます。また、合成音声の品質も向上できます。「平均声」の作成には数十人の「声のボランティア」が必要となるため、各地区でボランティアの募集を行っています。募集の詳細については、NII 公式サイト内の本プロジェクトのページ（<http://www.nii.ac.jp/research/voicebank/>）をご参照下さい。

〈ご参考〉

FC 岐阜 2001 年に設立、2008 年に J2 に参加した。ホームタウンは岐阜市を中心とする岐阜県。元日本代表の GK 川口能活選手らが所属し、元日本代表のラモス瑠偉氏が監督を務めている。今シーズンの成績は、6 月 14 日の明治安田生命 J2 リーグ第 18 節を終えて、4 勝 11 敗 3 分け、勝ち点 15 で 20 位。

『聲の形』 2013 年～14 年、週刊少年マガジン（講談社）で連載。大今良時作。人と人との繋がりをテーマに障害といじめを取り上げ、小学校で出会い高校生になって再開した耳の聞こえる少年と耳の聞こえないヒロインを中心に、クラスメートも含めた交流や青春期の葛藤を描いた作品。今年 3 月に発表された第 19 回手塚治虫文化賞で、斬新な表現や画期的なテーマなど清新な才能の作者に贈られる新生賞を受賞。

〈メディアの皆様からのお問い合わせ先〉

「聲の形コラボマッチ」について

株式会社岐阜フットボールクラブ 事業本部

電話：058-231-6811

「日本語ボイスバンクプロジェクト」について

国立情報学研究所 総務部企画課 広報チーム

電話：03-4212-2164

電子メール：media@nii.ac.jp

以上